

臨床研究のお知らせ

研究課題名：

「中間サイズのブラケットを用いた改良型マルチブラケット法の治療効果について」

1. 研究内容

現在、一般的に、2つのサイズのマルチブラケットシステムが用いられています。小さいサイズのシステムではワイヤーの剛性が小さいため、歯列を平坦にするのに時間がかかるという欠点があります。一方、大きいサイズのシステムでは、ワイヤーが硬いため、個々の歯のねじれの改善に時間がかかる場合や、スロットの中のワイヤーの遊びが大きいと歯の傾きのコントロールが不十分になるという欠点があります。

この研究では、両者の欠点を補うシステムとして中間のサイズの装置を使用し、従来のシステムと同様の使用法で治療を行い、患者さんがより快適により高い治療結果を得る新しい治療システムの開発と確立を目的としています。本研究の治療法が、従来の治療法に比べて有効性が明らかになることにより、矯正治療を受ける患者さんがよりよい治療を受けることができるようになります。

2. 対象

2010年(平成22年)4月1日から2016年(平成28年)3月31日までの期間中に、矯正歯科にて、従来のマルチブラケットによる矯正治療を受けられた患者さんが対象となります。

3. 研究の方法について

矯正治療時に用いるマルチブラケット装置には、一般的に0.018スロットと0.022スロットの2種類がありますが、本研究では、その中間のサイズを利用し、両方の利点を得て治療を行います。初診時、矯正治療終了時に、写真検査(顔面写真、口腔内写真)、模型検査(口腔内模型)、X線検査(正面セファロ、側面セファロ、パノラマX線写真)を行い、従来の0.018スロットを用いた場合と、比較検討を行います。

協力していただいた方に、本研究の結果が、直接利益および不利益となるような情報をもたらす可能性はありません。また、治療上においても不利益を被る事はありません。

協力いただいて得られた研究の成果は、個人情報情報を厳重に保護したうえで、学会発表および学術雑誌などで公表することがあります。今後の歯科医学発展のために、ご理解ご協力をお願い致します。

2016年3月

問い合わせ先 愛知学院大学歯学部 歯科矯正学講座
研究分担者 宮澤 健
連絡先電話番号 052-759-2111